

川のなぞ

北澤

金基

○ぼくの家のちかくには、中川という川が
ながれていきます。その中川では、舟でとおろ
人や、さがなつりをする人がたくさんいます。
でも、ぼくはこうおもいました。中川で、な
くな、てしまつた人はいないのか、なと、エー
スではよく、川でおぼれてなくなつてしまつ
た、ということ、外な外れていきます。でも、自分

の中で、中川でなくなつてしまつた人をきい
た、こと、外いちともありません。

そのほかにも、中川ではありませんが、なぜ
川でよくなくなつてしまふこと、外あるのか。
でも、川はルールというものをまもつたりす
れば、そんなことになることはありません。
でも、ほかには、大雨で川のな外れ外はやく
な、たり水のかわかふえて、家などをおう
ことがあります。ですがそれはしせんさいか
い、というものです。なぜ、ちやうでは、やうい

うことがおきてしまふのかほくには、わかりません。

はなしは、かわりますか川の名前などはどのようにして、どういう人がそういうなまえにするかほくは、ぎもくにおきもしました。たとえば中川、あら川、しなの川、すみだ川、みゆ川、ながら川、玉川などほかにもいろいろな川があります。それぞれは、どのようなにできたのかほくは、それがほくとうにきになります。

ほくは、これらの川の名をなせう人なことがおきた夕や、ほりふしぎにおもいます。また、はなしかかわりますか、はくは、あしかったこともい、はいあります。魚つりや水あそびなどにもいろいろあります。か、や、ほり川はこわいこと、たのしいことなどかわり、だから、やっぱりほくは、きにないます。